

2. 内視鏡検査・治療時の災害対策への取り組み

独立行政法人地域医療機能推進機構 諫早総合病院

内視鏡センター ○谷口 侑里、梅枝 志帆、吉田絵梨子
福島 友美、福島 昌子

【はじめに】

日本は地震大国であり、検査・治療中でも災害が起こる可能性がある。A病院では病院全体の災害対策マニュアルはあるが、内視鏡室独自のマニュアルは存在しておらず実際に検査中を想定した災害訓練を内視鏡看護師（以下スタッフ）全員で行った事はない。日頃から災害対策を意識した訓練を行っていないければ災害発生時に混乱し、安全を確保する為の適切な行動をとれない。

災害時にスタッフが行うべき初期行動を明らかにし、系統立った行動がとれるよう取り組む必要があると考え本研究に取り組んだ。

【目的】

地震発生直後を想定した机上訓練を行うことで災害時の初期行動を明確にする。

【方法】

検査・治療中に大規模地震が発生したと想定した机上訓練をスタッフ5名で実施。その後机上訓練での結果を踏まえてアクションカードを作成する。

【結果】

机上訓練では、リーダー、各検査・治療担当スタッフ、フリーと役割分担しそれぞれの立場で、最初に行うべき患者及び自身の安全確保と機器類・光源の扱い、治療継続の可否判断のタイミング、避難場所への搬送方法について様々な意見が出された。その一方で、部署内の報告体制や避難場所の認識が曖昧である事がわかり、A病院の災害対策マニュアルを再確認した上で内視鏡室独自のアクションカードを役割毎に作成することができた。

【考察】

机上訓練を通して、部署内での報告体制や避難場所等の情報が曖昧であったという問題点が浮き彫りとなった。机上訓練の実施内容や抽出された問題点をA病院の災害対策委員会へ報告し、明確な情報を得る機会となった。災害時の初期行動を明示できたと同時に、スタッフ内で情報を共有する事へ繋がったと推測する。

また、机上訓練にて役割毎に効率的・系統立った初期行動がとれるよう認識をすること

ができたと考える。

今後は、実際に災害が発生した際スタッフが初期行動をとれるようアクションカードを活用した災害訓練を実施し、スタッフの災害対策意識を高めていく事が必要だと考える。

【結 論】

机上訓練を踏まえて、行うべき初期行動や問題点を明確にすることができた。

内視鏡室の災害時マニュアルはなかったが、独自のアクションカードを作成し提示することができた。

【参考文献】

- 1) 相木純子, ほか: 内視鏡検査中を想定した地震初期対応のあり方. 日本消化器内視鏡技師会会報No. 60: 79-82. 2018.
- 2) 田中麻衣, ほか: 内視鏡室における地震発災直後の初期動勢作りに向けて. 日本消化器内視鏡技師会会報No. 60: 85-87. 2018.

【連絡先: 〒854-8501 長崎県諫早市永昌東町24-1 TEL: 0957-22-1380】